

## 5. アンケート結果（数字は人数・回答者数=32名）

### 在職年数

1～10年・・・17 11～20年・・・11 21～30年・・・4 31年以上・・・0

### 今回の研修について

非常に良かった・・・20 良かった・・・12 良くなかった・・・0 非常に良くなかった・・・0

### 講義『放射線施設の火災事故での対応と教訓』について

非常に良かった・・・21 良かった・・・11 良くなかった・・・0 非常に良くなかった・・・0

### 講義『京大附属演習林と臨海実験所の歴史的資料のデジタルアーカイブ化』について

非常に良かった・・・19 良かった・・・11 良くなかった・・・1 非常に良くなかった・・・1

### 講義『UAV(ドローン)の安全運航管理と運用業務』について

非常に良かった・・・23 良かった・・・8 良くなかった・・・1 非常に良くなかった・・・0

### 講義『都市の温暖化とクマゼミ』について

非常に良かった・・・22 良かった・・・10 良くなかった・・・0 非常に良くなかった・・・0

### 講義『「ストレス体験をおろそかにしない心がけ」の提案』について

非常に良かった・・・24 良かった・・・4 良くなかった・・・4 非常に良くなかった・・・0

### 講義『農耕地における除草剤抵抗性雑草の出現と抵抗性進化のメカニズム』について

非常に良かった・・・20 良かった・・・12 良くなかった・・・0 非常に良くなかった・・・0

### 実習『ミニトマトの収穫』について

非常に良かった・・・26 良かった・・・5 良くなかった・・・1 非常に良くなかった・・・0

### 農場の説明、見学、米の試食について

非常に良かった・・・22 良かった・・・9 良くなかった・・・1 非常に良くなかった・・・0



技術交流会

## 講義『技術職員』について（抜粋）

火災に限らずの業務上遭遇しうる不測の事態にどう対応するか、できるのかについて常日頃からクライシスマネジメントを意識し準備しておくことの大切さについて改めて考えさせられた。また、誰でもどんな時でも情報を拡散できる昨今では、一度事態が発生してしまったら直ぐ外部へ情報が漏れ出てしまうため、主要因の対応に追われながら、それらに関する情報の提供や関係省庁機関などへの報告も同時対応する必要性もあり、とても個人レベルでは対応できないことも理解できた。これらのことから、部局ならびに組織間での連携強化や対応部署・チーム等の編成と如何なる時でも機能する緊急連絡網の整備に加え、先ず不足の事態に陥らないためのリスクマネジメントの意識を個人レベルで高めるべく今回のような研修や教育を通じ養っていくことが必要であると感じた。

『放射線施設の火災事故での対応と教訓』では、非常時での現実的な連絡体制、行動マニュアルの構築、責任の所在の明確化の必要性を強く感じた。『京大附属演習林と臨海実験所の歴史的資料のデジタルアーカイブ化』では、埋もれたままの貴重な歴史的資料などを財産として活用するための取り組みとして理解した。『UAV(ドローン)の安全運航管理と運用業務』では、操縦技術習得の難しさや、関係法令や関係省庁について知ることができた。



垣下典永技術職員

講義『放射線施設の火災事故での対応と教訓』について。安全衛生に関わるものとして、他人事ではなく、怖くなりました。被害の拡散防止という観点で、情報も少なく混乱している現場でよく判断されたと思いました。放射線を取り扱う方は、法的な縛りが厳しいものもあるが日常から危機時の優先順位が定着していると感じました。日頃の意識付けの重要性を実感いたしました。帳簿が失われると人の記憶を当てにしなければならぬので、常時が望ましいが頻繁に別の場所にバックアップを取る必要はあると感じました。非常に参考になりました。

火災事故に関する講義では、事故対応に関わる注意点などのほか、緊急時の連絡体制、組織としての責任者の在り方など教訓となる事柄であり有意義であった。デジタルアーカイブ化についての講義では、地道な作業であるとともに記録を残していくことの重要性和難しさを感じる契機となった。ドローン運用に関わる講義は、自分の業務でも使用する可能性があるため、法令や手続き、技能向上についての知識を得ることができ、有意義であった。いずれの講義も、専門的なことではなく、分かりやすい内容で理解することができよかったと思います。

様々な分野の業務を担当している技術職員がいることを知れて良かった。デジタルアーカイブ化に関する講義では、デジタル化後のデータをソフトを使用して、情報を入力し、管理する方法は大変参考になった。

放射線施設の火災事故での対応と教訓で、今回の実体験の話は非常にありがたいと思いました。あの京大病院の火事以降、放射線施設の非常時連絡網については強化する動きがあったものの、いざ非常時になれば具体的に何をやるかの手順の類は示されず、その対策に困っていました。ここ最近、図書室で放射線に関する本を何冊か借りては毎日の電車通勤時に読んできましたが、今一つ抽象的なことばかりで現場のイメージが湧かず、このままではもし非常時が起きたとしても何をすべきなのか分からず、結果、今所属する事業所は詰んでしまうのではないかと危惧していました。そんな時です。今回の実体験に基づく具体的で、しかも同じ主任者の資格を持つ技術職員からの目線での話。大変、参考になりました。

今回、このような研修の機会を与えて頂き大変助かりました。願わくは、今後このような放射線火災が京都大学で起こらぬよう、それが一番であるとも思いました。

「放射線施設の火災事故での対応と教訓」は、自分自身に置き換えて、緊急時にどう動けばいいのかを考える良いきっかけとなりました。非常に刺激的な講義でした。「京大附属演習林と臨海実験所の歴史的資料のデジタルアーカイブ化」は、非常に意味のある活動であるが、主体となって行う人員を確保する必要があるのではと思いました。

体験できないような事件が印象的でした。資料のデジタル化は貴重な資料を拝見できてよかったです。ドローンの運行管理は今後役に立つ内容でした。

講義『放射線施設の火災事故での対応と教訓』は、着任当日に発生した事故に翻弄されるドキュメントタッチの発表だったので、とても興味深く拝聴した。幸いにも被害が甚大ではなかったが、連絡網の未成熟や訓練不足で機能しない組織など、反省点や教訓も多く、今後職場でそれらを次に活かす事を目指す。講義『京大附属演習林と臨海実験所の歴史的資料のデジタルアーカイブ化』は、創立 100 年を越える京都大学における科学史を踏まえた研究遺産を整理する業務説明だった。そんな業務の存在に、科学はいつも最先端を目指す視点からの脱却は、目から鱗が落ちる思いがした。京都に文化庁の移転が決定し、何でも残せる物は残す博物的な勿体ない文化をもう一度見直すべき時代の分岐点を実感した。講義『UAV(ドローン)の安全運航管理と運用業務』は、他の研修で聴いた事があり訓練体験の内容だったが時間も余ったのでもう少し内容を充実して欲しかった。

失敗から、どんなことを学べるのか分野は違えどつながることも多々あり非常に参考になりました。過去の何気ないスナップが後で大きな価値になる可能性があるのは大変興味深いです。ただ、段々容積が小さくなっているとはいえ、抱えきれない在庫には限りがあると思うし、その際にどう選別するのは難しいことだと思った。大学にドローンを専門に取り扱う部署があったのは驚きだった。今後、農場なども利用できる機会もあるだろうから、その時にはまた検討してみたい。



槇田盤技術専門職員

放射線施設の火災事故の対応の講義を聞いて、緊急事態は突然やって来るものだ痛感しました。赴任初日の勤務時間外に火災が起きるとは誰も想像しなかったと思います。初日で何もわからない状況でも責任者として対応しなければならぬ大変さ・難しさを感じました。また、マスコミや SNS による情報拡散の速さは恐ろしく、間違った情報が流れないように対応することも大事だと思いました。

放射線施設の火災事故について講義があったが、災害発生時に報告伝達が機能していないとより大きな事故へ発展する可能性があると思った。今回は新人だが経験豊富な職員がたまたま対応出来た事が幸いしたが、経験いかに関わらず冷静な判断が出来るよう日頃から災害時における行動をシミュレートしておく必要があると感じた。

『放射線施設の火災事故での対応と教訓』について事故が起こったのが、京大で働き始めた初日だったということだったので、事故は本当にいつ起こるか分からないと気が引き締められました。また、そんな状況にもかかわらず冷静に適切な対応をされていて、日ごろの備えと経験が重要であると感じました。

自分とは違う職種の方がどのようなことをしているのか知る機会になりました。また、どの職種でも管理することや法に従ったものなど共通部分もありました。その点については、私の職種でもいえることだと思ったので再度確認したいです。とくに、デジタルアーカイブ化についてはとても細かい作業で大変だと思いましたが、これから歴史を残していくことは大事なことなんだと強く思い、自分の職場でもできることは行っていこうと思います。

技術職員として、事故などの非常時に何をしなければならないのか、何ができるのかを前もって考えておくことが重要だと感じました。

今年度発生した事例の体験談、同じ職場でも知らない事柄、最近はやりのテーマと大変有意義でした。

放射線施設の火災事故での対応と教訓の講義について、赴任初日と思えないような行動、対応のお話を伺い、迅速な判断力、実行力に心を打たれました。京大附属演習林と臨海実験所の歴史的資料のデジタルアーカイブ化の講義について、地道な作業を少しずつ行っていくことは大変な作業だと感じました。UAV(ドローン)の安全運航管理と運用業務について、空中を飛ぶ物体の制御は大変難しいと思います。安全に操作するためには十分な訓練の時間が必要で、訓練時間の確保が課題だと思いました。

初日最初の講義は、京都大学の施設での火災事故にも関わらず知らなかった。近年特に厳しくなった労働者(職員)の安全の管理や危機意識の向上に直結する深刻な問題点を、改めて認識させられた。二つ目の講義については、歴史的資料の保存方法として、デジタル化が進んでいる中、アナログにしかない独特の付加価値のようなものを感じることができた。また、このような保存方法にも慎重を期す必要のあるもの(財産的価値)については、極力バックアップという意味でもデジタル保存と並行していかないといけないと感じた。三つ目の講義は、ドローンの運行について非常に多方面からの法規制があること、運行する場所・時期等事前にクリアしないと行けない段階がいくつもあること等運用が難しいことに加え、安全面への配慮を常に意識しないと行けない骨の折れる業務もあることが分かった。

他の職務内容をお聞きし、日常の自身の業務から離れて、新鮮な空気が吸えた感じがします。

放射線施設の火災事故の話は非常に興味深いものでした。職種は違えど、自分の仕事に置き換えた際、誰もいない、職場内の事も分からない、連絡体制も分からない…など分からないことだらけと仮定した場合、自分には何が出来るのか、を考えたとき、迅速かつ的確な対応を行える自信がありませんでした。一応連絡体制やフローはありますが、とっさに最適な判断が行えるよう、日頃から注意を払い、引継ぎなどでは漏らしてはいけない重要項目だという認識を持ち続けたいと思いました。

多岐に渡る内容であったが、全体的に興味深く、良かった。特に放射線施設の火災事故に関する話は、火災事故自体に遭遇する事が稀だと思うが、そういう貴重な経験から得られたお話を聞けて、とてもためになったし、自身の職場でも、もっと危機意識を持って、有事を想定した対策を考えていかなければならないと、強く意識させられた。

それぞれの部局で行っている具体的な業務の報告であったため、貴重な経験となった。非常時の対応、過去データの保存、UAVの運用など、どれも今後の業務を行う上で関連してくる内容であったため、非常に有意義な講義であった。



加茂正人技術職員

自分と異なる分野について聴くことができ良かった。特に印象深かったものは「放射線施設の火災事故での対応と教訓」であった。実際に対応を行った職員の話聴き、事故の状況、消防隊との対応時に困ったことなどを知ることができた。今後、自分の仕事場での夜間や休日の緊急連絡先と緊急時に必要なもの、対策を考えたい。

全ての講義がよかったです。放射線のような危険な物質を扱っている部署ではありませんが、火災等の非常時の対応について考え直すきっかけになりました。古い資料の取り扱いについて、貴重な資料があるかもしれないので、慎重に取り扱おうと思いました。ドローンを導入したいと話していたところでしたので、とても参考になりました。

火災事故については、貴重な体験から、全学的な取り組みだけでなく、他大学やほかの施設でも有用な知見を京大から伝えていくことができるのではないかと思います。ドローンの利用についても、実践的で有意義でした。

『京大附属演習林と臨海実験所の歴史的資料のデジタルアーカイブ化』について過去の資料をアーカイブ化するという大変な作業をなさっているのだなと思いました。あらためて京大技術職員の職種の多様性を感じました。

### 講義『都市の温暖化とクマゼミ』について(抜粋)

セミのおしっこは横にも飛ぶという初耳な情報からはじまり、セミの産卵は樹上の朽木で行われ孵化した1齢幼虫は乾燥に弱く、孵化時期が大阪では初夏～猛暑にあたること。また、緑が少なく保水性が悪いヒートアイランド現象が続く都市の固い地盤では、降雨後でもクマゼミ以外の1齢幼虫は中々地中に潜れず天敵に襲われたり乾燥にやられたりとサバイブするには過酷な環境にあり、温暖化に伴いクマゼミが淘汰され続け今日に至ること。またそのクマゼミが、光ケーブルに穴を開けるくらい強力な産卵管を持っていて我々の日常で馴染み深い要素への弊害を与えている事実も知ることができた。クマゼミの増加に温暖化が関係しているとは、全く想像していなかったため、2回目の蟬取りをする世代となった今、知ることができて良かった。3回目の蟬取りをする頃にはどうなっていくのかを注視したい。

様々な手法を駆使して研究がなされていることを知った。科学においては、正確で慎重な検証が非常に大切だということが分かった。

温暖化とクマゼミと題しながら、確定した事が言えないという姿勢が印象的でした。分かりやすい説明ではありましたが、仮説と結果が非常に簡潔で勉強になりました。セミが生態系でどのような役割を果たしており、生物種が入れ替わる事による影響は分かりませんが、光ファイバーケーブルが破損するというインフラへの影響は人間に取っては重大であり、温暖化によって遠回しに影響があるのであればやるせなく感じました。

温暖化により昔よりもクマゼミが増殖していることは感じていたが、それを単なる温暖化として結論付けるのではなく、地道な調査・研究によって原因明らかにしていくという重要性や面白さを感じることができた。と同時に、自然や生物を対象とする研究では様々な要因が働きあっているのもまだまだ未知の領域が多くあることも感じ、更なる研究の進展を期待したいと思います。

クマゼミが光ケーブルに産卵し、断線する問題が起きていることは衝撃だった。また幼虫を使い、湿度や状況を変えた実験は大変そうであった。

昔(約30年前)、セミと言えば茶色の羽がついたアブラゼミばかりで、透明な羽のセミはほとんど目にしなかった。しかし最近では確かに透明な羽のセミが地面の上で死んでいるのを見るのが多くなったなあと、講義で言われていたように、セミの生息数はだんだんアブラゼミからクマゼミ(透明な羽のセミ)へと偏ってきているのだと思う。そして、このセミの生息数の逆転は都市の温暖化が関係しているということで詳しく説明がなされたが、他にも滋賀県立大学ではセミの天敵が関係しているのだという説も紹介され、出身校の大学なのだが、そんなことしていたのかと思った。知らなかった。また、セミは木の枝に卵を産むということで地面に落ちている枝に変な傷が入っているものは、セミの産卵の痕だそうで、自分は知らなかったのだが、加えてセミが枝と間違えて電線に卵を産むというのも初耳で、そんなことあるのだなと思った。

生き物を相手にする研究で、非常に手間と時間がかかるものだろうと思いますが、研究に対する熱意が伝わってくる講義でした。

嵯峨との地域差があるためか、違いを思いながらとても楽しく聴講させてもらいました。

講義で蟬の幼虫が土に潜る際の土の乾燥度が生存に大きく寄与する結果は、非常に興味深く拝聴した。ただし、土が柔らかい時のデータを当然潜れる結果だろうから実験していないのは、データ不足と解析不足感が否めなかった。更に、温暖化とクマゼミの繁殖の関連性は、直結しないとお話は、納得出来たが、韮公園等の特別な場所や高地で、クマゼミが繁栄しない理由を説明する事が不十分であった為、天敵である鳥の攻撃からの回避飛行法等の別の諸説も紹介して欲しかった。実際、生物を研究する上で、再現性を必要とする科学実験に寿命の長い蟬を研究する事は、非樹に困難であり、環境野卑との影響等、様々な影響を及ぼすパラメーターの多様性によって複雑になる。この為、何が原因で、蟬の勢力範囲が変化して行っているのか、まだまだ研究段階であり、今後の研究の進展が待たれる状態である事が理解出来た。今後の蟬の勢力地図の変化の原因解明を期待している。

蟬の活動範囲はそれほど広くないのには驚いた大学ではやかましいほど鳴いている蟬が単一種になりつつあるのは驚いた家では、ヒグラシやツクツクボウシを普通に聞いているので、また街に出た時にその変化を実体験してみたい。

仕事に関係のある分野の講義で興味深く聞かせていただきました。セミの生態から都市部のクマゼミ増加の原因まで幅広くお話いただき大変面白かったです。私は今まで日本全体でクマゼミが増加傾向にあるものだと思っていましたが、都市部だけで増加していること、気温上昇だけでなく土地被覆や乾燥による土壌硬化が原因であることを今回の講義で初めて知りました。私の職場にもセミは多く、講義で登場したセミのうち、ミンミンゼミ以外は確認しています。抜け殻調査はやったことがないので、夏にやってみたいと思いました。

クマゼミの増加を通して地球温暖化を議論する事が出来る点が興味深かった。また、クマゼミは湿度が高いほど孵化が促進される特徴を持っており、温暖化に伴い孵化時期が早まった事が、梅雨の時期と重なったこともクマゼミの増加した要因の一つであった。さらに、土壌硬度の上昇がクマゼミの増加を助長している点も興味深かった。

私の業務内容にも関連のある講義でしたので、大変興味深く聴かせていただきました。地道な実験をたくさんしておられて、研究者には忍耐力も大事だと改めて感じました。先生が分かりやすく、おもしろくお話して下さったおかげでセミに詳しくない方も楽しく聴けたと思います。

身近な昆虫のセミについて詳しく講義していただきました。クマゼミが増えた理由に地球温暖化が関係しているというのは、統計やデータをとってからいえるということがわかりました。何にしても、しっかり根拠をとって行うことというのは研究していく中で大事だということを再認識しました。また、セミだけでなくアブラムシとアリの関係性の話も初めて知ったことでとても好奇心をそそるお話でした。

身近なものの変化を捉えるためには、相当な量の実験や観察が必要であったと思います。深く洞察していくという姿勢に感銘を受けました。



沼田英治教授

遠隔地勤務のため、都市部でのクマゼミ増加について知らなかったが、その要因については温暖化に加え、特に1齢幼虫時期の生活が重要であることが分かった。また1齢幼虫時期での生活における気象等の環境と他のセミとの孵化時期の違い等様々な要因が重なったために起きた現象であることが分かった。また、一部の場所・地域でクマゼミの増加現象が生じていないこともあり、これから明らかにされるのが非常に多く、長期継続が必要な研究の難しさを感じることができた。

セミ取りに出かけ、クマゼミしか取れなかった理由やその背景が本講義で分かり、とても勉強になりました。自宅に帰り、早速子供に教えてあげました。都市部のヒートアイランド現象が生物の生態系を壊しているのも事実だと思いますが、先生が仰っていた「これが温暖化の原因だと簡単に結びつけてはいけません。」という言葉が非常に印象的でした。

沼田先生のご講義という事で、お話しが面白く、終始大変興味深かった。クマゼミが増えていることは事実であり、都市の温暖化が進んでいる事も事実であるが、その因果関係について論じるには、様々な実験や検証を重ねる必要があり、簡単に論じる事はできないという点が印象的で、技術職員として、今後も色々な問題に直面する事があると思うが、科学的な視点も身につけて、慎重かつ着実に技術を積み重ねて問題を解決していけるようになればよいなと感じた。

クマゼミの生態・温暖化と個体数の関係など、調査のプロセスも含めて興味深い講義であった。

今までなんとなく聞いていた蟬の鳴き声も、過去と現在では大きな変化が起こっていることや、クマゼミが都市部で多くなっていることもニュース等で知ってはいたが、科学的な説明で改めて講義を受けると考えるべき点が多々あった。温暖化との関係も一概にはいえない点や、ニュースから知る情報を鵜呑みにしてはいけないことなど、考えさせられる点が多々あった。

自分と全く異なる実験方法を行っていたので、興味深かった。幼虫を育てたり、セミのぬけがらを数えたりすることは大変だろうと感じた。温暖化とクマゼミの分布の関係(仮説)を勉強でき、良かった。また、セミのことを知ることができ、良かった。

生き物のライフサイクルの中で最も弱いところを観察だけでなく実験もおこなって、「温暖化」の影響を科学として把握されようとしておられるところに感銘を受けました。

非常に面白い講義でした。大阪のクマゼミが温暖化によって増えているという事を仮説立てて、何が原因なのかを調べていく過程をとても分かりやすくご説明くださって非常に面白かったです。

## 講義『「ストレス体験をおろそかにしない心がけ」の提案』について(抜粋)

人として生きることはストレスの中に身を置くことだと分かっているものの、そのストレスと向き合うことが如何に重要であることなのかを知る契機となった。そのストレスも十分消化しないと己自身の身体を蝕むことや、自己犠牲の下組織の繁栄を考える前に自分の身を守ること、ストレスと距離を置くことなど現時点で自分が置かれている状況とリンクするワードに触れることが出来て、自分自身を見つめ直すことが出来た。「ストレスを味わい尽くす」、ストレスを感じているときに「感情に突き動かされず己を俯瞰する」など心に響いた。私自身も職場の対人関係で神経をすり減らしている。理学研究科のカウンセリングできる窓口があり専任のスタッフがいることがとても羨ましく、所属する研究科にも気軽に相談できる場所があればありがたい。

学生の頃にストレスとどう付き合うかを悩みながら、自分なりの対処法を探っていたことを思い出しました。私は、視覚情報よりも、周囲の音や気配に敏感のようで、上手くシャットアウトする事で、ストレスと付き合えるようです。以前の手法が今も活きているおかげで、現在のストレスフルな状況に対応できているのだなと感じました。大変参考になりました。

絵を描くことができず、困惑したが、その描く絵によってある程度の傾向が分かることは興味深かった(サンプル数が少ないのが残念)。ストレスをストレスと感知することが重要であることが分かった。また、それぞれのストレスに対する対応について、

正解が無いことの難しさ、大変さを改めて感じた。

ストレスを感じる時の絵を描いてくださいということで、何がストレスなのか探さないといけないので多少の時間を与えてもらうことは必要なのですが、絵を描く作業が早くに終わってしまって実の所、暇でした。その暇な間に『どのようなことを感じたり考えたりしていたか。』というプリントの文章問題をやれば良かったのですが、そのような指示はなくただ待っているだけで時間配分が良くない気がしました。一方で、良かった点は描いた絵についての講評でした。絵の中に自分の姿が出てくれば、外から自分を眺める視点があるということ。また、嫌な感じを連想させるイメージ像が自分の描いた絵の中にあれば、今をよくしようとする流れがあるということで、心理テストのような感じがして面白いなと思いました。

絵を描くというテストのようなものもあり、わかりやすかったです。現在は理学研究科のみで活動中とのことですが、他の部局でも専門スタッフが配置されると良いと思います。

講義をお聴きして、ストレスに対する自己認識を理解出来、今後のストレスとの向き合い方を見出す事が出来た。講習の最初にストレスに対するお絵描きは、自分の存在とストレスの捉え方で4種類に分類する手法をあまり理解出来ず、投げっぱなし感が半端なかったのもう少し対処法等の説明をして欲しかった。また、内なるストレスに対する捉え方の違いで、外の世界の見え方が変わる事に心の安定化の面で、非常に有効である事を学んだ。逆に、心が落ち込んだ時には、出来るだけ笑って、外界から内なるストレスの緩和も重要である。とは言え、大きなストレスには、大泣きして心を洗い流すのも時には良い方法でもある。このようにストレスは、無くす事はとても難しいので、如何にうまく付き合っていくのが大切であり、ストレスも悪い奴じゃないとの認識出来る事が、より良い心の関係を形成出来、ストレスの中に光明を見出す事こそ幸福への第一歩だと実感した。

ストレスのモヤモヤを絵に表すという作業が難しかったです。私はストレスを感じた場面を客観的に絵に描きましたが、他の方の絵には自分自身が見た風景だったり、モヤモヤを形や色で抽象的に表していたりと様々な表現方法で描かれていました。ストレス体験は忘れたいけど忘れられずさらに感情的になると悪化してしまっていますが、今回の講義で、経験をもとに学習すれば次に同じような場面が起きても別の対処法が取ることができストレスを緩和できるということが分かりました。難しいことではありますが、少しずつチャレンジしてみようと思います。

いわゆる聴くだけの講義ではなく、自分と向き合う時間や感情を絵や言葉にする、これまでにない形式であった。短時間ではあったが、あまり向き合ってこなかった自分の感情と向き合う事で新たな発見があった。

自分自身と向き合うことが出来たと思います。ぜひ先生に講義で描いた絵を見ていただき、アドバイスしていただきたかったです。相談は理学研究科の方のみ可能ということで残念でした。

ストレスを感じているのかどうかよくわかっていない時があるため、ストレス体験をしていたとしても覚えていないことが多々ある。その中で、メンタルヘルスが必要な人がこんなにも多く、また受けているストレスも、受け方も様々、さらにはその対処や心療も様々ということがわかり、非常に慎重な対応が必要であることを痛感した。ストレスを受け流す、あるいは感じにくくするトレーニングのようなものを、自分自身で普段から意識し、心がけていくことが必要であると感じた。

「しっかりとストレスに向き合う」最近、これをやっていました。しっかり向き合えたので、今は、あんなこともあったな一っつて感じで、前進できた感じです。

自分自身よくストレスをため込む性格なので興味深く拝聴しました。嫌なことを意識する事が、問題の対処行動を起こす、とのお話がありましたが、対処行動を起こした後の自分を取り巻く環境の変化の話も聞ければ良かったなと思いました。絵を描く時間が長かったからか、最後駆け足になったのは残念でした。

人間、生きていれば必ずストレスを感じる場面に出くわす事があり、仕事上でもそういう場面はよくあると思うが、今回の講義内容は、そういった時にどうすればよいのかを考えるよい機会になった。

ストレスをそのままにしていけないことや、ストレスと向き合うことの大切さを伝えたかったのは良くわかったが、今後



どのようにストレスと向き合っていけば良いのか、具体的にはよくわからなかった。この内容でやるには時間が足らなかったのではないかと。貴重なテーマだと思うので、このテーマだけで別に研修を行っても良いのではと思いました。

ストレス体験やその結果(実際に描いた絵の解釈)について勉強になった。ストレスと向き合う機会ができ、良かった。理学部だけでなく、様々な部署にカウンセリング施設があれば良いと思った。



山本 斎 主任専門業務職員

#### 講義『農耕地における除草剤抵抗性雑草の出現と抵抗性進化のメカニズム』について(抜粋)

除草剤抵抗性雑草の出現は私の業務においても大きくかわるので常日頃から注視していることでもある。今回の講義であったように、作用点抵抗性と非作用点抵抗性を同時に併せ持つ複合抵抗性のスーパーウードが除草剤の連用で今後淘汰され残っていくことを思うと、除草を除草剤にのみ依存した栽培体系を選択し続けることの危険性と多様な防除方法を選択することが、スーパーウードの進化を遅らせることが出来るのであると確信した。アレロパシー物質を生産する他の作物の利用などで、主作栽培地以外の雑草の繁殖をコントロール、作用機作の異なる薬剤のローテーションや耕種的防除も励行した総合的な防除体系を整え対と感じた。

スーパー雑草とは特異なものではなく、単一の防除手段を繰り返すことで数年で薬剤抵抗性を獲得する可能性があり、結果、優先していくことが分かった。抵抗性を持つ植物だけを優先させないために、複数の除草手段を用いるとよいことが分かった。

除草剤の阻害メカニズムを知らなかったので非常に勉強になりました。話を聞くまで、除草剤抵抗性とは複合抵抗性を持つ事であると勘違いしておりました。手取除草が有効であり、日本では抵抗性雑種の出現が遅いという話は興味深かったです。農作業の効率化には重機が必要であり、小さなコミュニティでシェアする事で一つの畑に複数の抵抗種が出現するというのは非常に大きな問題であると感じました。ユーザーサイドからは、除草剤が効かない雑草があった場合に「1種類で複数の抵抗性を持つから効かない」と「異なる抵抗性を持つ複数種類の雑種が混在しているから効かない」は非常に判断しづらいと感じました。今後は、人の医療と同じように診断と処方が必要になる時代が来るのでしょうか。

やや難解な内容であったが、抵抗性雑草の発生メカニズムについて、詳細な解説をしていただき、少しは理解することができた。普段の業務においても除草剤を使用する機会があるので、このような問題点があることを踏まえつつ使用していきたいと感じた。また、生きものに対して化学物質を用いることの危険性を再認識するとともに今後の対策の困難さも感じる事ができた。

正直、専門的なことは理解出来なかったが、やはり雑草は強いのだなと思った。また世の中の的に注目されないことを研究できるのも京都大学だからかなと思った。講義の中で稲にそっくりな雑草が出てきて、素人には見分けがつかないと思った。

業務で除草剤を使用する場合、抵抗性雑草を出現させないために正しい使用方法を守って、除草剤を散布しなければ

ばならないと思った。

除草剤の効かない雑草が生えてくる、ということでまるで病院で出てくる薬剤耐性の病原菌みたいだなと思った。どちらも薬(除草剤あるいは抗生物質)を使うと選択圧によって薬剤耐性のある雑草あるいは病原菌が生き残ってくる、ということで実にそっくりなメカニズムだと思った。それでどうしたらこの厄介な除草剤耐性の雑草をなくせるかについては①同系統の除草剤を連用しない②作物のローテーション③除草剤散布以外の除草方法の併用、をすれば良いと講義で紹介された。ただ、残念なことに薬の使い方を間違える(医療現場であれば抗生物質を乱用する、農耕地であれば使用する除草剤の経費を節約するためその使用量を標準より減らす)ことで、逆に薬剤耐性の病原菌や雑草が発生しやすくなり、現場で苦慮している現実があるとのことだった。なかなか人が考えているような理想的な答えに辿り着くのはどこの世界でも難しいものだなと思った。

農場では、主に農業に適した植物の研究をしていると思っていたが、植物の育成に邪魔となる雑草の研究をしている事に驚いた。嘗て昭和天皇の「雑草という草はない」という言葉があり、あるがままの雑草にはそれぞれ名前があるが、人間にとって有益となる植物以外は、場合によって全て雑草となる。育成を目的とする植物以外の雑草は育たないように除去した方が良く、手で抜く等の方法は負担が大きい為、除草剤を散布する等の方法が効率的で有効である。しかし、除草剤を撒くに連れて進化し、耐性を持つ除草剤抵抗性雑草も適者生存で増える事となる。その為、なぜ効果がなくなるのかを研究し、それに対抗する除草剤を開発する麴ごっこを続けざるを得ない。雑草も生きるのに必死で、環境に合わせて、あらゆる可能性を取込み進化する事が子孫繁栄の為には、重要である。その進化が邪魔ではなく、何か役立つ効果が発見されると、雑草と呼ばれなくなる。技術も然り。

普段使用している除草剤にそれほどの抵抗性が出ているとは驚きだった実際には困っていることもなく、散布タイミングなどの問題もあるだろうし、今度注意してみたい。

興味のあるお話でしたが少々難しい内容でした。除草剤抵抗性がある雑草は知っていましたが、塩基配列のたった1つの塩基が変わるだけで抵抗性が出てしまう、また抵抗性は進化していることが今回の講義で分かりました。私は仕事で日々雑草に悩まされていますが、研究上、除草剤は使用できないため物理的な防除で対策するしかありません。一番労力の少ない除草剤が効かなくなってしまうと農家さんの苦労が増えてしまうので対策が必要だと思いました。

自宅で使用する除草剤が年々効かなくなってきたのは薄薄感じていたが、同じ除草剤を使い続ける事で抵抗性になるのだと生物学的に理解する事ができた。また、そのような雑草は252種類も存在し、遺伝的要因から生物学的および生態的要因にいたるまで様々であった。最後はゲノムの話もあり少し難しいと感じる部分もあったが、大変勉強になった。

除草剤を散布したから変異個体が生じるのではなく、除草剤を散布したことによって元々存在していた変異個体が浮き彫りになるというお話が印象的でした。



富永 達 教授

職場にも、イヌビエをはじめ多種多様の雑草がありとても興味のあるお話でした。日本人はすごいんだと、今残っているものにつながっていることが不思議でした。またお話を是非うかがいたいと思います。

現在、生物(種)の減少が危惧されているが、この講義を聞くと一部の種において、ある意味進化を遂げていること、さらには種の分化にも発展していくのではないかと感じた。除草剤という化学製品を用いたことによるメリットとデメリットが共存する時期から、デメリットが優先する時期へと移行している段階なのではと思った。実にタフな雑草と向き合うためには、除草剤未使用期間を設け、抵抗性の増加を抑制する措置も講じながら、より良い方法を模索すしかないのかなと感じた。

これまで気にも留めなかった雑草だが、単一の防除手段を繰り返すことで抵抗性が進化する、という講義を拝聴し、研究の大変さとその先にある面白さの両面を感じる事が出来た気がします。雑草にも進化があることは頭では理解できるが、普段見過ごしてしまっているだけに、そうした分野にもこのように研究が進んでいるという事を知れて、視野が広がりました。

普段、作物の事について考える事はあっても、雑草について真剣に考える機会はなかなかないため、大変興味深いお話であった。遺伝的な事は学生時代に勉強した以来で、内容について理解しきれない部分もあったが、手摘み除草で作物に形態のよく似た雑草だけが生き残り優占したという話や、同じ除草剤を使い続けると耐性のある雑草が優占して問題となっているという話は印象に残った。耐性、抵抗性があると一口に言っても、その機構は様々であるという事で、生物が進化するというのは凄いことであると改めて感じた。また、雑草について興味がわいた

業務に関する内容であったので、非常に興味深かった。他の施設に行けば活かせる。ただ自分の知識が足りないため、成分名で説明されると、頭がついていかなかった。製品名が具体的にでた時には非常にわかりやすかった。今後除草剤を使用する時には、成分等も細かく見ながら計画を立てて使用しなければならないと思った。

非常に面白い講義でした。まず、酵素を標的として結合して、その酵素の働きを阻害するという除草剤の仕組みを初めて知りました。そして、アミノ酸の変異により標的酵素の構造が変化して、酵素の働きを阻害できなくなるように雑草側も抵抗している?のも面白いと思いました。除草剤の有無に関わらず、元々変異が入って耐性を持っているものがあるというのも驚きでした。遺伝子増幅で酵素の発現量を増やすのにトランスポゾンが関わっているというのも面白いと思いました。

## 農場での実習、見学、米の試食などの感想(抜粋)

日常業務では触れられない業務に触れることが出来て新鮮だった。自分が説明する場合にどの点に的を絞った方が理解され易いのか、技術職員の説明手法や対応は自分のためになった。また、今回は収穫実習の際、スタッフとしても参加する機会にも恵まれたが、他の分野の技術職員とは言え玄人のような間を投げかけられたりもして、自分自身もさることながら身近にある題材だけに受講者の食いつきが良い印象を受けた。少しでも多くの参加者に新農場の現状とコンセプトを理解していただけたと信じた。

移転前の高槻農場を以前に見学をさせて頂いておりましたので、新農場はぜひ見学させてほしいと思っておりましたので、大変興味深かったです。今後の農場環境整備を見据えての設備投資がずいぶんとされていましたが、現状の稼働状況にとってはオーバースペックであると感じました。しかしながら、そのための対策として周辺農家への開放を行っておられると聞き、嬉しく思いました。お米の試食は初体験でしたので興味深かったです。学生時に海外旅行して帰国した時に日本のお米はそのままで美味しく料理の一種であると感じました。外国人はどう感じるのでしょうか?試食体験を米に馴染みのない留学生に食してもらった場合の結果に違いが出るか気になりました。

移転後初めて訪れたが、最新鋭の設備や規模の大きさに圧倒されると同時に、これだけの施設を現有職員で維持していけるのかとやや不安を感じた。施設説明はそれぞれが興味深い内容で時間が足りないと感じた。コメの試食、トマトの糖度測定は面白い内容であったが、ともに違いを見分けるのは難しかった。収穫体験もさせていただき、とても有意義であった。

実習でトマトの糖度測定を行ったが、予想外に差があったことに驚いた。また部位で微妙に差が出ることに驚いた。見学では機材、バラ等を見させていただいたが、人数がいても世話をするのは大変だろうと思った。米の栽培がまだ本格的ではないようなので、来年度はさらに忙しくなるのではないかと思った。米の試食はなんとなく違いは分かっていても厳密に判断を行うのは難しかった。

トマトの収穫をしたことが無く、大変貴重な経験をすることができた。糖度測定の実習では、糖度測定器の使用方法や原理を知ることができ大変勉強になった。

農場の説明では、GPS 基地局を使って田んぼの稲を真っ直ぐ植えたり、ドローンを使って作物の生育・品質管理を行うなど、最近の農場はそんなハイテクなことをするのかと驚いた。また、農場内のビニルハウスでは暖房施設にガスを用いており熱と一緒に生産される二酸化炭素をハウス内の作物に供給しているという説明もあった。実際イチゴのビニルハウスを見学したが、葉がとても大きく成長して大きさが人の顔ぐらいもあり、なんて健康的なイチゴハウスなのだと感心した。そして、実習では糖度計を用いてトマトの糖度測定を行ったが、この糖度計は実は屈折率をもとに測定されているようで屈折率を上げる物質であれば糖でも酸でも糖度計の値は大きくなるのだという。糖度が高いからと言って一概に甘いとは限らない、という説明があり意外な発見だと思った。

実習における糖度測定は、糖度計を使うのが初めてだったので興味深い内容でした。米の試食も、検定協会が行っている方法に(だいたい)則っていたため、本格的かつ真剣に取り組むことができました。



農場の説明と見学

実習は、トマトの採り放題で貰えるとは思ってもよらず、とても有難かった。トマトの甘み測定実習も、試みは楽しかったが、結果と実際に食べた甘みにそれ程差が感じられなかったのが残念だった。出来れば甘み実験で使われるトマトを廃棄するのは勿体ないので、調理室で実験し、残ったトマトをジュース等に加工してもらえれば良かったと思う。見学は、最新のリサイクルシステムを導入した温室で栽培される薔薇や苺等、収穫が始まっている物もあったが、果樹等は、植えたばかりで、まだまだ時間が掛かる事を痛感した。最新の農作業車や精米機等は、新設備を見て楽しかった。太陽光発電の下には、日光の必要のないアスパラガスを植えて土地の有効利用を望む。米の試食は、面白い試みであったが、実際違いがある事が判ったが、本当においしいご飯の判別が出来なかったのが、残念だった。判定後、再度試食してみたが、味がかなり落ちており、確かめようがなかった。

新しくできた木津農場の見学で楽しみにしていました。農場は非常に広く驚きました。ハウス設備は最新の加温・冷却システムが入っており興味深く見させていただきました。果樹園や遺伝子組換え対応の施設を見学してみたのですが、時間の都合や1年目で果樹が苗木であることから見学できなかったのが残念です。米の試食は官能試験の難しさを改めて感じ、悩まず直感で試験しました。実習は楽しく行うことができ、糖度計と実際の味覚との比較は糖度が高いほど本当に甘く驚きました。トマト収穫作業は簡単なようで難しく時々失敗しました。収穫したトマトは翌日研修に参加できなかった技術職員に配り美味しくいただきました。

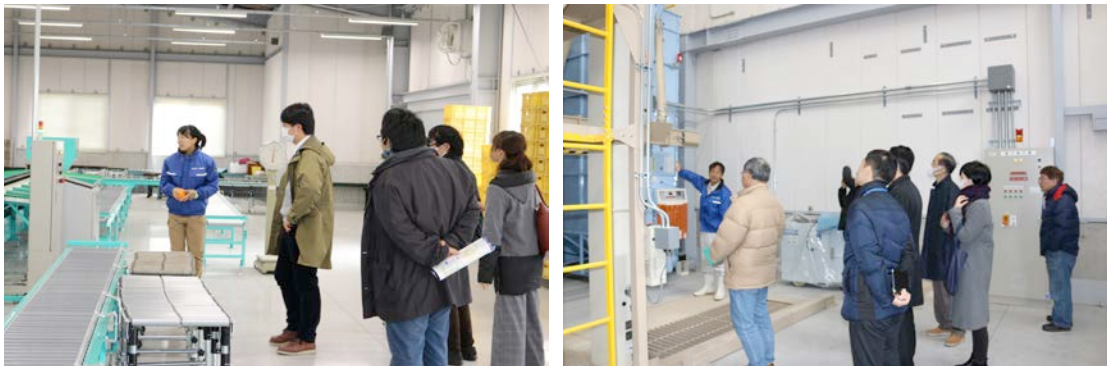
講義：最初に附属農場についての概要を解説していただいた。一番印象に残っているのは、トリジェネレーションシステム(ガス→電気・CO2)である。特に、このシステムによって生成されたCO2を農業に用いる事により、収穫

量が増えるとう事が興味深かった。

米の試食：1つの基準米と4つの米を試食し5項目の評価を行った。基準米と4つの米のうち1つは同じ米が用いられていたが、炊飯ジャーの違いにより評価も大きく違った。この試食でわかったのは、炊飯ジャーはより高価で性能が良い方がより美味しく炊けるという事であった。

見学・実習：農場の敷地は大変広く、維持管理も大変であろうと感じたが、GPSなどを用いて農作業車をコントロールし、田植などの作業の自動化が図られていたのが印象的であった。実習ではトマトの糖度測定を行った。その際使用された桃太郎トマトは、職員の方々が作られた物で、とても美しく、美味しかった。

普段見ることのない施設を見学させていただき、貴重な経験ができました。農場見学とお米の試食については、少しあわただしかったので、もう少し時間に余裕があるといいかなと思いました。最後にトマトをいただいたのは嬉しかったです。おいしかったです。



農場の見学

とにかく広くてびっくりしました。新しい施設で、立派な機器、ハウス等がありました。また実際に案内して下さった職員さんの熱い心も伝わってきてモチベーション向上につながりました。露地を見ているととても排水が悪くて大変だということで苦労されているんだなと思いました。職員の方が数年かけて土づくりをしていくということでまた数年後どのようにになっているのか見学させていただきたいです。施設については、私の職場でも活かせるようなところがあったので役に立ちました。お米の試食はおもしろかったです。なかなか食べ比べる機会がないので楽しめました。トマトやイチゴをお土産で購入しておいしくいただきました。

食べ比べするときには注意する点や技能向上のための訓練方法が知りたい。

農場で実際に行われている作業やシステムについて知ることができて、大変勉強になりました。

植物の病気に気をつけながら丁寧に育てていくことは難しいことだと思いました。米の試食について、出来上がった米は時間の経過とともに表面が乾燥して硬くなってしまい、味の区別がよくわからなくなりました。

同専門群の施設見学等は非常に興味深いものがあり、今回は収穫や試食等五感を使ういい内容だったと感じた。また、実際にそこで業務される職員さんには大変なご苦労があるなと感じた。新たな場所での研究や維持業務が今後とも発展されることを期待します。

農場と聞いて、もっと泥まみれ土まみれと想像していましたが、まだ、移転して間もないということで、全てがきれいすぎたのは少々残念でした。できれば、使い古した味のある高槻の農場を見学したかったです。ミニトマトの収穫は、無心にとって沢山頂きました。職場でも好評でした。ありがとうございました。

業務上、普段は行くことの無い場所ですので、知見を広げるいい機会となりました。見学は時間がタイトであったため、もう少しじっくりと見たいと思いました。米の食味試験はその微妙な違いが分からず時間をかけ過ぎ、気が付けば米の表面が乾いてしまい、試験にならない状態でした。逆に、研究者の方はそれくらい微妙な違いに日々研究と努力を重ね、良質な品種を生み出す努力をされているのだと実感しました。

移転後の農場を初めて訪れたが、以前の農場とはかなり様変わりしており、最新の機器やトリジェネシステム等を見る事ができ、大変興味深かった。米の試食では、硬さや味、香り等、正直なところ炊き方や炊いてからの時間等の影響の方が大きいのではないかと思っただが、確かに品種によって微妙な違いがあり、おいしいと感じる物もあったので、貴重な経験ができたと思う。午後の実習について、糖度計は私の職場の学生実験でも使っているのも新しい事ではなかったが、糖度の測定値と実際に食べてみた食味を紐づける体験ができた事がとてもよかった。また、収穫したトマトが非常に美味しく、家族にも好評でした。ありがとうございました。



### 米の食べ比べ

農場技術職員の方々からの説明は非常にわかりやすく、新しい農場施設を見ることもできて非常に良かった。もう少し時間にゆとりがあれば、なお良いのではと感じた。米の試食は自分の舌は貧乏舌であることが確認でき今後安い米でも満足できるのではと、実習の目的とは違うかもしれないが、良い経験ができた。昼食と同時進行で米の試食だったが、時間の都合上仕方がなかったのかもしれないが、せっかく齋藤先生から話をさせていただいているのに弁当を食べながら聞くということが、多少申し訳ない気持ちだった。

米の試食では、それぞれの違いを感じる事ができなかったが、各米の種類について知ることができた。農場の見学ができ、ビニールハウスの温度調節の仕組みなどを実際に見ることができ、勉強になった。トマトを収穫でき、お土産としていただくこともでき良かった。

最新の設備があり、画期的なシステムへ向かっている情熱に感銘を受けました。できれば、ゴミなどの有効利用についてもやっていただきたいかったです。

こまやかに準備いただいて、ほかではできない体験をさせていただくことができました。ありがとうございました。「米の試食」の時間は、ご講義をうかがっていると、試食も、自分の昼食をとることもできず、少し戸惑いました。

新しい施設で非常にきれいでした。実際にハウスに入ってミニトマトを収穫したのは楽しかったです。トマトの糖度の測定で、実際に糖度の低いものの後に高いものを食べると確かに甘く感じました。

米の試食はスケジュール表を見たときから面白そうだと楽しみにしておりました。Bの「たちはるか」だけはなんか違うなと感じましたが、他はどれも美味しく正直あまり差がなくて難しかったです。



### 実習の様子

**技術職員研修にふさわしいと思われる見学先などご存知でしたら教えてください。(抜粋)**

本学の技術職員が配属されている部署は一通り見学したいです。また、ストレス体験をおろそかにしない心がけを受講して思ったのですが、「異文化理解」や「相互理解」を題材にすることは、「ストレスを受けるもの」と「ストレスを与えるもの」を理解することにつながると思っていますので、それらについて学ぶ機会があっても有意義だと思います。国際協力などに関わりのある学部では、それらの話はしていただけるかもしれません。

大型の放射線発生装置の施設見学ができればと思っています。理化学研究所、放射光科学総合研究センターの大型放射光施設(SPring-8)、X線自由電子レーザー施設(SACLA)。また、ニュースバル放射光施設というのもあります。これらが兵庫県播磨科学公園都市という所に集まっているようです。

技術士の資格はまだ取得していないが、最近、技術士会の集会に参加しており、そこで色々な技術士の方々とお話しする事により、様々な知識を吸収出来て面白い。特に、京都技術士会は、活動が活発で、様々な分野の技術士と社会的身分の分け隔てなく、同等の立場で話が出来るのは非常に有難い。また、京都大学技術士会の発足に伴い、協力して貰える技術士もいるかもしれないので、積極的にお話を伺うのも良い事だと思う。見学先として、企業に所属する技術士と仲良くなって、相談する事により、企業見学もお願い出来る可能性がある。実際、技術士会に参加する事により、多くの企業の技術士と名刺交換を行う事が出来たので、交流を深めるチャンスだとも思う。その他の可能性として、来年は近畿地区研修の当番校であり、総合技術研究会との合同開催なので、京都らしい企業として、京セラや島津製作所、オムロン、村田製作所、堀場製作所等の見学が出来れば有難い。

具体的に提案された見学先：防災研・霊長類研・琵琶湖博物館・大阪管区气象台・製薬会社・阪急電鉄正雀工場

**今回の研修を通して感じたこと、ご意見などお書きください。(抜粋)**

他の技術職員が、日常業務において何を重んじ何を求め、何を伝えたいのか、対象はそれぞれ異なるものの、発表を通じ理解する機会となった。我々の業務に限ったことではないであろうが、常に新しい技術を追い求め試行錯誤しながらも、先人たちの記録・軌跡を知り、ご苦労に触れることでより我々の業務の本質や向かうべき方向を自分の中にしっかり捉えられ、日頃から危機管理について意識し準備することの必要性も再認識できた。また、心身ともに健康で業務を行う為、ストレスも十分消化しないと己自身の身体を蝕むこと。また、自己を犠牲にし組織の繁栄を考えるばかりではなく、時には自分の身を労い守ること、ストレスサーと距離を置くことなど、改めて気づく事ができた。

単体の部局では実施しにくい横断的な話が聞けて大変参考になりました。次年度以降も可能な限り時間の都合をつけて参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。

2日間という短い期間でありながらも内容が盛りだくさんで充実した内容であった。また日常の業務に直ちに行かされる事柄もいろいろと知ることができ非常に有意義な研修であった。

今後とも様々な見学や講義、実習を検討していただきたい。また以前あったヒューマンスキルのような研修も取り入れていただきたい。

自分がちょうど知りたいなあと思っていたこと(放射線施設の非常時対応のこと)を技術職員研修で企画してもらって、ありがとうございました。過去に起きた事故事例を勉強することが放射線施設の安全文化の醸成に重要なのですが、なかなか事故報告の現場の解説をしてくれる場面はありません。助かりました。

久々の参加でしたが、非常に刺激的な内容で満足しています。それぞれの専門分野のプロ集団という誇りをもって日々の業務に当たりたいと思います。

とても興味のある内容の講義でした。今回の研修に参加して、災害対策や科学的遺物保存、ドローン操作、ストレス対策等の技術職員の興味深い業務内容を拝聴出来て、とても面白かった。また、蟬の分布変化や雑草の除草剤耐

性、米の試食等、今後の研究の進展が期待される分野の講義を聴く事が出来て、非常に役に立った。その他にも、農場での実習や見学は、高槻の便利な場所から周りに何もない不便な新たな施設に移り、まだ海の物とも山の物とも判らない手探り状態が垣間見られて、今後期待される色々な溢れる可能性の一端を体感する事が出来た。研修や懇親会を通じて、発表者や参加者との様々な情報交換を行う事によって、今後の業務遂行の糧と成り得る。今後、色々を用意等大変だと思うが、今回の研修のように、手を動かす実習を含め、多方面に分野に拘らず為になる講義を受講したり、普段は入れないが、特別に施設見学したりする事が出来る研修の開催を期待する。今後とも宜しくお願いします。

初日の講義は大変興味深く聞かせてもらった火災事故は身近でも起こる可能性がないとも言えないので、防災はもちろんのこと、もし起こったらを考えていろいろシミュレーションしておきたい

2年連続で総合研修に参加させていただきました。今回の研修内容にとっても興味があったため参加をしました。が、本当に面白く、仕事で活かせるものが多かったと思います。また、普段会うことのできない技術職員の方々と交流でき有意義な時間を過ごせました。また参加しようと思います。ありがとうございました。

見学や講義を通して、様々な分野の研究者の研究内容や技術職員等の活動を知る事ができた。特に附属農場は、遠隔地施設でもあり、生物や自然と向き合う姿勢などが我々の環境とも近いので、共感できる部分も多く大いに学ぶ事ができた。スキルアップ研修も良いが、今回のような研修からはもっと大事な事を学べるような気がします。研修委員の皆様2日間お疲れ様でした。

普段かかわりのない技術職員さんとお話ができ、情報交換ができました。講義内容も分野に偏りがなく、勉強になるものばかりでしたので良かったと思います。

たまには職場と違う場所に出て、他の職員と交流するのも気分転換になって良いと思いました。

非常時にすべきことを常に考えることの重要性に気づけたこと、専門外の技術に対する理解を深めること、技術職員同士の交流など大変有意義な研修でした。

講義をしていただいた技術職員や教員の皆様、対応いただいた農場の皆様に大変感謝いたします。対応していただいた皆様の負担は大きいと思います。毎年研修が行われますが、特定の人に負担が集中しないような配慮が必要だと思いました。

今回は数年ぶりに参加させていただいたが、非常に多くの方のお力添えがないと実施できないと改めて感じ、いい研修会を終えることができました。講義・実習での講師の皆様、会場設営・準備等でご尽力いただいた世話役の皆様に改めて感謝の意を表すとともに、今後も技術職員研修を発展・継続していただきたいと思います。お世話になりました。ありがとうございました。

初めて参加させて頂き、改めて技術職員を感じました。いつもの日常業務から離れて、違う職種の職員の方々との情報交換は心身ともにリフレッシュできました。とても充実した機会を頂き、大変感謝しております。世話人の方々、お話を下さった講師の方々お世話になりました。

群を超えた技術者が集まり、それぞれの日々の研究や業務を発表するこうした場は非常に有意義なものだと思います。今回参加させていただきましたが、毎回でも参加したくなる良い研修だと思います。普段業務をしていると、学内でも限られたごく一部の面しか見ることが出来ないため、普段は行くことのないキャンパスや施設で講義を受けることが出来るのは非常に貴重な体験になりました。

個人的には外部から講師を招いての研修よりは、今回のように同じ学内の技術者がどんな環境の中でどのような研究を行っているかを知れる今回のような形式が好きです。

講義、見学・実習ともに大変興味深いプログラムばかりで、有意義な時間を過ごせました。私の普段の職務からはかなりかけ離れた内容の物でしたが、技術職員としての自身のあり方や仕事への取り組み方、意識の持ち方など、色々で見直すきっかけになりました。気持ちを入れかえて、翌日からの職務に臨めると思います。ありがとうございました



いました。

非常に有意義な研修でした。また、単純に楽しかったです。機会があれば今後も積極的に参加したいと感じました。

講義時間や講師(技術職員と教員のバランス)も良かったと思う。講義内容も身近な内容で、身になる研修であったと思う。ストレス体験の講義と、施設見学・実習の時間にもう少し余裕があるとより良いと感じた。バス移動があると時間調整が難しいかもしれませんが、講義時間を短くして、見学・実習に時間を回すなどあっても良いのではないのでしょうか。最後になりましたが、世話役の方々、農場技術職員の方々、教職員講師の方々には非常に有意義な研修を体験させていただき感謝しております。ありがとうございました。

自分と異なる分野の講義を聞いたり、様々な職場の職員と話すことができ、視野を広げることができた。とても勉強になり、楽しかった2日間であった。どうもありがとうございました。

研修を企画して下さる世話人の方々にこの場をお借りいたしまして深く感謝いたします。ありがとうございました。